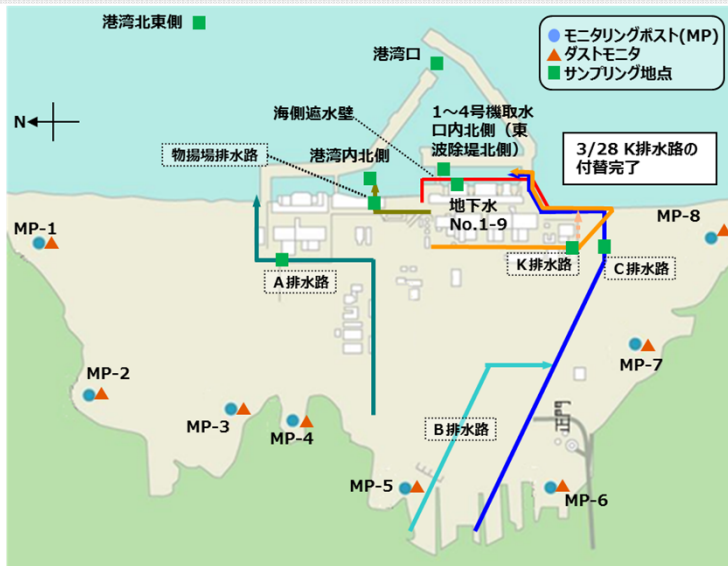
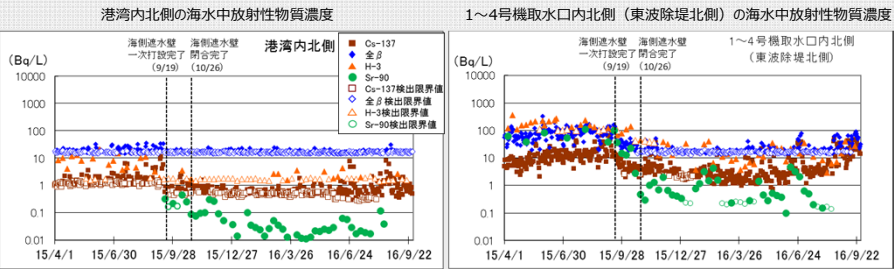


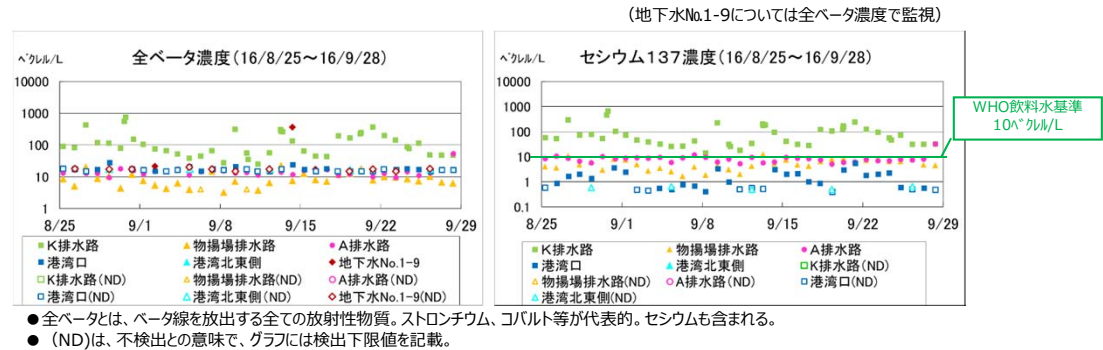
- 前回 (8月25日) 以降のデータ公開数は約8,500件
前回以降、「周辺の放射性物質の分析結果」「日々の放射性物質の分析結果」のデータ約8,500件を公開しました。
- 1号機建屋カバー壁パネル取外し作業開始、敷地内ダスト (粉じん) 濃度は安定
1号機では、原子炉建屋カバー解体工事に伴って、屋根パネル全6枚の取外し完了 (2015年10月5日) 以降、ダスト飛散防止対策として散水設備の設置、オペレーティングフロア崩落屋根上の小ガレキ吸引作業、飛散防止剤散布などを実施し、本年9月13日より壁パネルの取外しを開始しました。今後、壁パネル全18枚を約3ヶ月かけて取外しを行っていく予定です。また、2号機では周辺建屋の解体等の作業、3号機では原子炉建屋オペレーティングフロアへの遮へい体設置作業を実施中です。これまで、敷地境界を含め、敷地内ダストモニタのダスト (粉じん) 濃度に有意な変動は確認されておりません。今後も、飛散抑制対策を実施するとともに、ダスト濃度について、しっかりと監視を継続していきます。
- 港湾内海水の放射性物質濃度の傾向
8月下旬以降降雨が多かったところに台風16号に伴う降雨が重なったことから、1～4号機取水口付近の2地点でセシウム137が2015年4月以降で過去最高の濃度まで上昇しましたが、降雨後は下降傾向であり、構内排水路からの流入量が増えたことによる従来と同様の変動と考えております。引き続き港湾内の水質を監視していきます。



TEPCO データ採取位置図 (右のA、B、C等に対応するポイント)

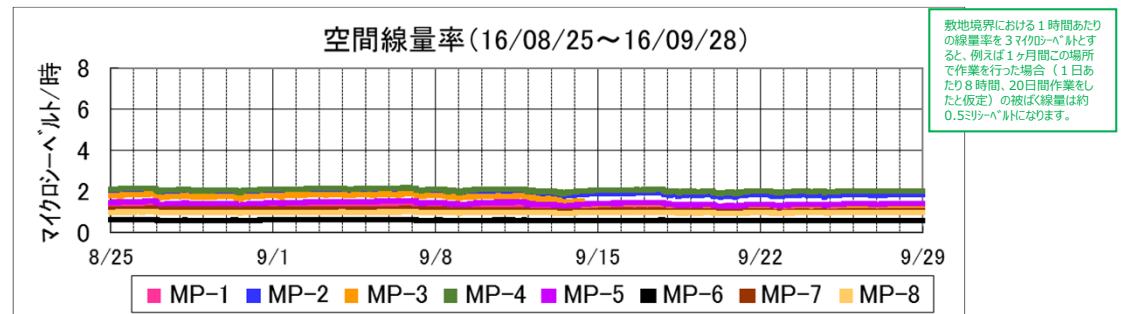
A 水 (海水、排水路、地下水等)

- K排水路では、8月下旬以降、台風等に伴う豪雨により、セシウム濃度、全β濃度の一時的な上昇が発生。
- セシウム137は、K排水路を除き概ねWHO (世界保健機関) 飲料水基準を下回った。



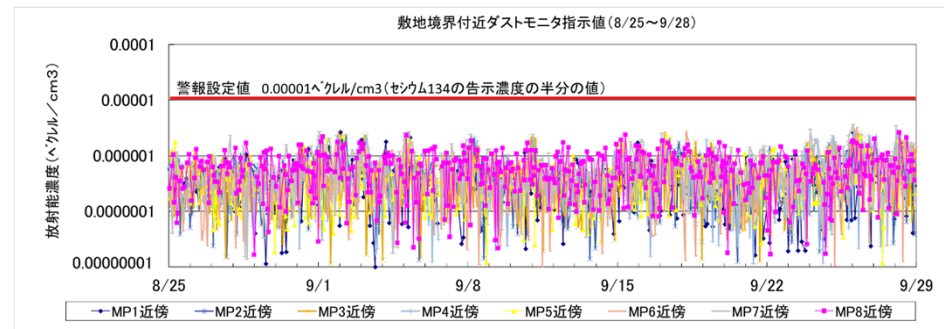
B 空間線量率 (測定場所の放射線の強さ)

- 降雨による一時的な線量率低下が何度か見られたが、低いレベルで安定。



C 空気中の放射性物質

- 大きな上昇はなく、低濃度で安定。

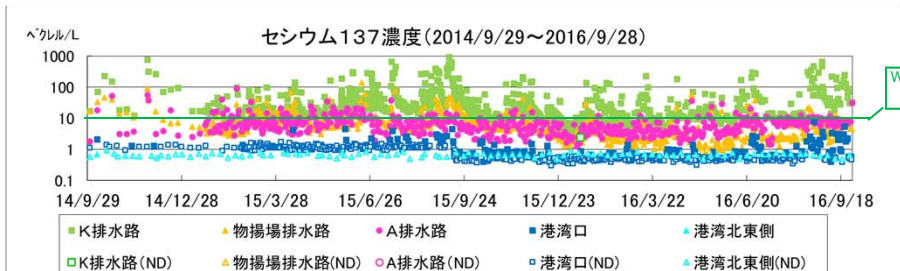
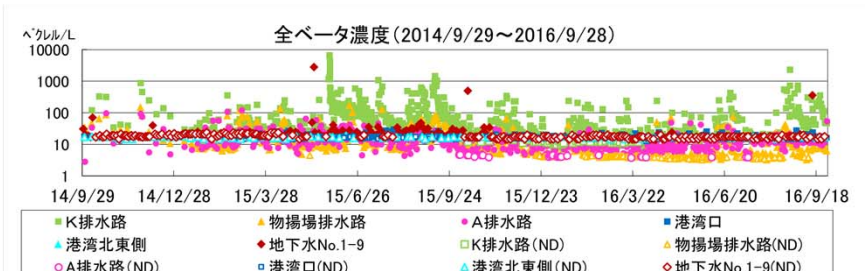


- 8/22.25 一時的な指示値の上昇が確認されたが、調査の結果、結露による誤信号の影響と判明したため欠測とした。
- 告示濃度とは、法令に基づき国が排出を認める濃度。国内の原子力施設共通の基準。

放射線データの概要 過去の状況

A 水（海水、排水路、地下水等）

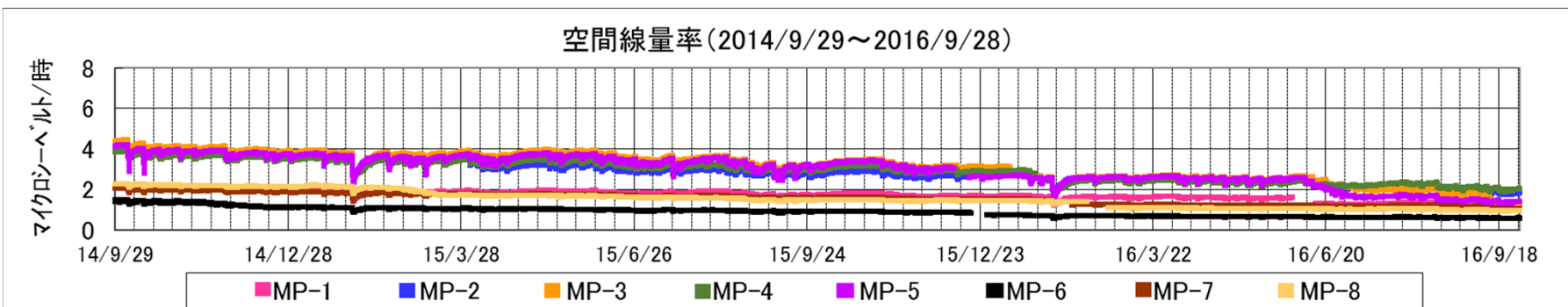
- ・港湾口は低水準で安定。セシウム137はWHO飲料水基準未滿。
- ・K排水路は比較的高い傾向。清掃等の対策を実施中。2016年3月28日に排水先の港湾内付替えを完了。



・K排水路、物揚場排水路、A排水路については2014年4月16日より測定を開始。

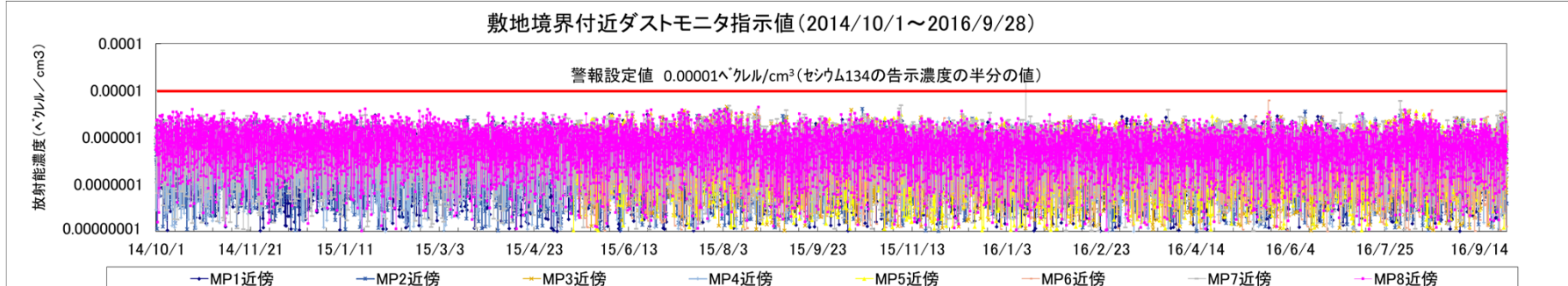
B 空間線量率

- ・汚染水の浄化、除染、フェーシング等により、全てのモニタリングポストにおいて2013年4月の約半分まで低下。



C 空気中の放射性物質

- ・ダストの濃度は、2016年1月13日のMP-7の一時的上昇を除き、大きな上昇は無く、低濃度で安定。
- ・2016年8月22・25、一時的な指示値の上昇が確認されたが、調査の結果、結露による誤信号の影響と判明したため欠測とした。



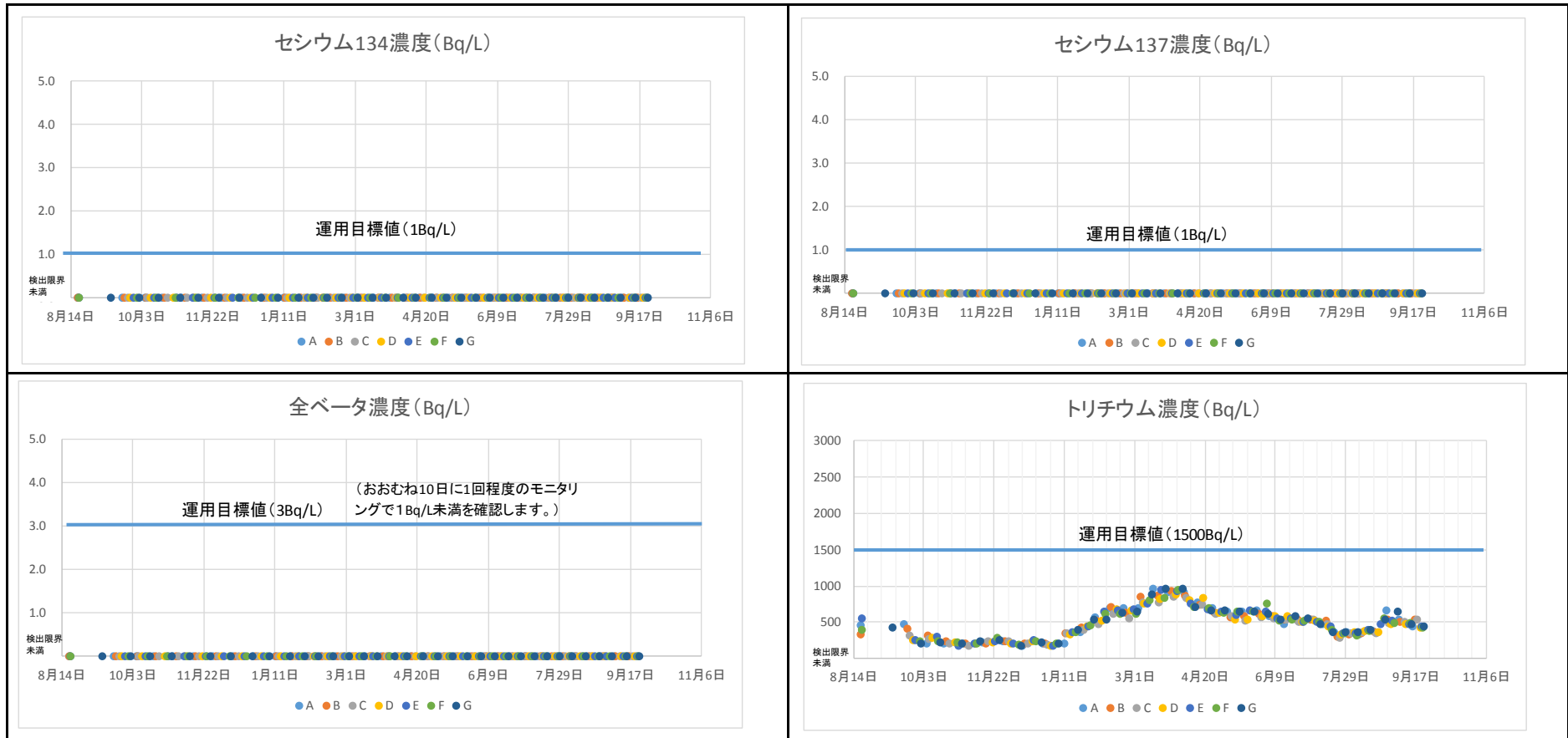
・MP1,2,4,7,8近傍は2014年10月1日、MP3,5,6近傍は2015年5月14日より、測定開始。

サブドレン・地下水ドレンによる地下水のくみ上げと分析

分析結果・排水の実績

- 一時貯水タンクに貯留しているサブドレン・地下水ドレンの分析結果は、いずれも運用目標値を下回っていることを確認しました。
- 同じサンプルを第三者機関にて分析を行い、運用目標値を下回っていることを確認して、2015年9月14日から2016年9月27日までに合計241回、196,099m³を排水しました。

一時貯水タンクの分析結果（当社分析値）



サブドレン・地下水ドレンの分析結果の詳細については、<http://www.tepco.co.jp/decommision/planaction/monitoring/index-j.html#anc01sd> をご覧ください。

